

2019年度 町田市観光まちづくり推進委員会 会議録

○開催日時 2020年1月29日(水) 14時00分～16時30分

○場 所 市庁舎9階 会議室9-2

○出席者 出席委員： 西田司委員長、高橋清人副委員長、川原晋委員、西村靖生委員
伊藤博之委員、三田村貴幸委員、間仁田修委員
欠席委員： 和田圭司委員、王莉莉委員
傍聴者： なし
事務局： 経済観光部長
観光まちづくり課長
他事務局2名

○資料

- 1-1 町田市観光まちづくり推進委員会設置要綱
- 1-2 町田市観光まちづくり推進委員会委員名簿
- 2 2019年度観光まちづくりリーディングプロジェクト事業体系と事業費
- 3 2019年度観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について

○次第

開会

- 1 経済観光部長挨拶
- 2 町田市観光まちづくり推進委員会について
 - (1) 委員会概要説明
 - (2) 委員自己紹介

3 議題

事務局から

- 1 観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について
 - ・資料2及び3により、事務局から説明。

【委員からの主な質問・意見等】

(スポーツコミッションについて)

- ・スポーツコミッションの検討について、現状と今後の方向性を伺いたい。

⇒まずは国内大会や合宿を誘致していきたい。また、2019年度は、インドネシア空手代表選手事前合宿受入を行ったが、国際大会についても、市立陸上競技場や、市立総合体育館といった施設があり、誘致できる可能性がある。スポーツコミッションに期待することは、まちの活性

化だけでなく、経済効果の両面の側面がある。どのようなスポーツコミッションが町田にとって良いか議論していきたい。(事務局)

(観光の担い手について)

・町田市の観光の担い手とはどのような団体を想定しているのか。

⇒町田は、フットパスの発祥の地であり、日本フットパス協会の事務局が町田市観光コンベンション協会が担っている。また、「NPO 法人みどりのゆび」が、町田市でフットパス活動を推進している。来月には、日本フットパス協会設立 10 周年記念イベントが行われる。これをきっかけに町田市フットパスの活動に関わる方に、観光の担い手となっていただきたい。(事務局)

・フットパスは、ヨーロッパの地方都市が発祥であり、交流を重視している点で良い取り組みである。町田市は、地方と異なり、都市と田舎がある。都市型のフットパスの良い見本となりうる。北部丘陵や小野路の里山等は特に良いスポットである。

2 観光まちづくり基本方針に係る今後の取り組みについて

(1) 基本施策 1 「町田ならではの地域素材の洗い出し・磨き上げ」について

・当該施策の推進に際し、重点的に取り組んでいる「町田薬師池公園四季彩の杜のブランドマネジメント事業」の現状と今後について、事務局から説明した。

【委員からの主な意見】

・薬師池公園四季彩の杜を一体的に整備する目的は。

⇒各施設で、個別に事業を行っており、連携することで事業効果の強化を図ることができると考えている。情報発信についても一体的に行いたい。(事務局)

⇒例えば、町田市で 2 番目に多くの来訪者が集まる施設であるリス園では来訪者が薬師池公園四季彩の杜の他の施設に行っていない。薬師池公園四季彩の杜内を回遊して欲しいと考えている。(事務局)

・各施設は、距離が離れているのが回遊する際の課題ではないか。

⇒連携イベントを実施する等すれば、多くの来訪者が集まるのではないかと。また、グリーンスローンモビリティの試走をはじめた。セグウェイ等、回遊性を高める施策に取り組みたい。(事務局)

・マスコミ向けモニターツアーでどのような効果があったのか。

⇒12 月のツアーでは、西園のオープンに向けた情報を取り上げていただいた。3 月にもモニターツアーに行く予定である。(事務局)

・地元の人に取り組みを知ってもらうことが重要である。フェノロジーカレンダーも利用できる。色々な人と作る。地域の方々に情報発信をする仕組みが必要である。

・ただ目的もなく、周辺施設を回遊するのは、昔の観光である。薬師で過ごせる時間とは何か。ターゲットや来訪者がどのように過ごすのか、その目的を考えることが重要である。

・他の観光地と薬師池公園の違いは何か考えるべきである。例えば、江ノ電の踏切のように、観光地をイメージできるシーンを、PR することも考えられる。

・サブカル等、異質なものを組み合わせることで、新たな観光資源が生まれませんか。

・薬師池公園四季彩の杜には、大型バスの駐車場がないことが交通アクセス面での課題であった。

駐車場や観光案内所が整備されれば、観光地としてのポテンシャルはかなり上がると思う。

- ・薬師池公園四季彩の杜は、四季の花が楽しめることが価値である。
- ・新しくできるインフォメーションセンターは、おもてなしの方法等、どのような取り組みを行っていくのか考えていく必要がある。
- ・ファミリーで来訪する場合は、キッズスペースはあるか、飲食店はあるか等、事前に情報を調べて足を運ぶ。来訪する人の立場に立ち、情報発信することが重要である。また、特別な情報を発信する場合も、他の観光地と異なる特色を出すべきである。

(2) 基本施策2 「観光まちづくりの担い手と態勢づくり」について

- ・当該施策の推進に際し、町田市版DMO（観光経営組織）の方向性や、観光まちづくりの担い手を増やす取り組みについて、現状を事務局から説明した。

【委員からの主な意見】

- ・DMOの設立目的等を伺いたい。

⇒町田市観光コンベンション協会が地域DMO登録することを考えている。目的は、シビックプライドの醸成を考えている。(事務局)

- ・DMOの代表者の専門性は何か。ブランディングなのか。国の考えるDMOを考えるにしても、役割を絞った方がよい。ターゲティングも重要である。
- ・DMOが組織のための組織となるのは、避けるべきである。なぜ、DMOを設立するのか、課題は何か分析をすることが重要である。
- ・DMOの取り組みを絞る場合は、例えば、スポーツコミッションやフットパス等をメイン機能とし、薬師池公園四季彩の杜の集客をサブ機能とすることも考えられる。
- ・データを収集して、何を行うのか。DMOの取り組みは、大きく広げると失敗している事例もある。
- ・観光コンベンション協会がDMOとなるメリットは。

⇒観光の活動は、役所単独では限界がある。また、DMO設立の過程で観光コンベンションの経営面での機能が強化されるのではないかと考えた。(事務局)

- ・観光コンベンション協会の役割をDMOに置き換えるだけでは、現状と変わらない。DMOは、横断的に事業を展開できるのが強みである。役割分担と連携組織は重要である。例えば、エリアマネージメントの組織と組み合わせると、より広域的に活動できる組織となった事例もある。DMOの中での役割分担も重要である。
- ・例えば、防災マネジメントDMOもある。なぜ設立するのか、なぜDMOでなければならないのか設立する目的が明確であるとよい。
- ・連携のハブとなるという意味では、四季彩の杜の取り組みもDMOと似ている。
- ・DMOを組織する中心人材の確保は、DMOを設立する際の課題となる。
- ・DMOが、行政の実行組織となる例は多いが、補助金に頼った組織ではなく自立をしていくことが求められている。

(3) 基本施策3 「地域素材が持つ魅力の伝達と交流の拡大」について

- ・市内外に向けた観光プロモーションの取り組みについて、事務局から説明した。

【委員からの主な意見】

(外国人向けの情報発信について)

- ・外国人向けの情報発信やおもてなしの方法は、国籍、年代層、人種等により方法やアプローチが異なる。全てをカバーするのは困難であるため、ターゲットは絞るべきである。
- ・国によって、旅行目的や好みは異なる。例えば、アジア系は、格安ツアーを利用することが多い。
- ・町田の魅力として、なんでもあることは強みであるが、裏を返すとセールスポイントを絞り込めていないということではないか。例えば「〇〇のまち」といった明確なセールスポイントを掲げることがブランディングである。これを踏まえた情報発信が必要である。
- ・資源は何か絞りこむことが必要。

(観光のテーマ性について)

- ・国の有識者会議では、「環境」や「地方」が観光のテーマとなってきている。町田市がエコに何をしているのか取り組みも選ばれる観光地として重要である。
- ・薬師池公園四季彩の杜にある、ダリア園、リス園、フォトサロン、こころみ農園は元々福祉施設である。観光客が多様化する中、バリアフリー等の観光地の背景も重視されるようになってきた。インバウンドを見据えるならば、福祉に力を入れている姿勢も評価される可能性がある。
- ・薬師池四季彩の杜では、手話ガイドも活動している。観光地としては先進的である。福祉サービスも観光地の魅力として評価される。

以 上